

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公

公表:令和 6年 1月 20日

事業所名 こぱんはうすくら 広島井口教室

保護者等数(児童数) 30 回収数 21 割合 70 %

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	16	2		3	ご意見なし	教室内の環境が見えにくい点のため、ブログやお知らせを使用して、保護者様に知ってもらおうようにする。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	12	2		7	ご意見なし	見えにくい点であるため、基本配置等の基本事項をまとめた説明を契約時に行う。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	14	2		5	ご意見なし	子ども達が使いやすいように設備を整えていく。
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	21				作成して下さっています	子どもの様子や保護者様の要望を吸い上げ、今後とも計画を練っていく。
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	19	2			長く通っていると、何回も同じ所に行っていると 思います。 いつも楽しいプログラムで毎日楽しみに しています	同じようなプログラムが行われているように感じられているため、心機一転新しいプログラムを考えていく。
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	4	1	4	12	今までそのような機会があったかどうか 分かりません。	実際交流を持つ機会がないため、持てるような機会を設ける。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	20	1			事前に教えて下さっています	契約時に説明し、分からなければその都度説明を行っている。
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	19	2			送迎の時に様子を聞いています。	個別計画を元に、共通理解を持ちながら、支援をし、保護者様にも伝えていく努力をしています。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	14	3	3	1	定期的に面談などしてほしい。 帰りの送迎時等でその日の様子も教えて 下さいます。	個別支援計画を見直す際に面談をしているが、日程などの都合により全員と話せない場合もある。
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	1	4	9	7	保護者イベントや親子イベントがないので、 またやってほしいです。 保護者会の希望は特にないので大丈夫 です。	教室の広さなどの制限により、保護者会を開く事が難しい現状がある。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	13	3		5	保護者からの苦情は特にありません。	苦情やお困りの電話に対しては真摯に対応していく。LINEの導入に伴い、メッセージでのやりとりも多くなるようになった。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	17	2		2	ご意見なし	連絡帳などで保護者様に必要な情報を伝えている。
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	19			2	ホームページで拝見しています。	お知らせ、ブログ、HPなどで情報を発信している。
	14 個人情報に十分注意しているか	17			4	ご意見なし	注意している。
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	13	2		6	学級閉鎖の時どうしたらよいのか分から なかった。	教室の中で判断できない場合には、社長にも相談するため、返事が遅れる事がある。なるべく迅速に対応し、保護者様に安心して頂けるようにする。
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	14	2	1	4	ご意見なし	避難訓練はきちんと実施している。
満足 度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	21				仲良しのお友達がいる様で楽しみな様子 です。	児童同士の交流にも気を配り、楽しんでもらえるように今後とも支援していく。
	18 事業所の支援に満足しているか	19	1		1	ご意見なし	納得できる支援を続けていく。

273 29 17 59

72%

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 1月 20日

事業所名 こぱんはうすさくら 広島井口教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	10	1	棚や机の配置を考え、活動時には適切な広さを保てるようにしている。	手狭と感じる場合には、児発と放デイの部屋を区切らずに使用するなど臨機応変にスペースを使っていきたいと考えています。
	2	職員の配置数は適切である	10	1		職員の負担や子ども達の療育を考え、配置数を考えていきたいと思っています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	10	1	誰でも使いやすいように、おもちゃの配置や手洗い場の物を整えている。	子ども達が使いやすいように、スタッフの仕事も効率的に行えるように考え、話し合っ環境を整備していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	6		PDCAサイクルを知っているスタッフが少ないため、皆に周知していく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	11		アンケート調査には時間がかかるため、送迎時や連絡帳にて、保護者からの不満や要望などを吸い上げている。	定期的に保護者向けアンケートを行うことは難しいため、送迎時や電話対応時に保護者様から聞き取りを行うようにしている
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	11			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	10	1		こぱんはうすさくらの本部から専門家に視察に来てもらい、事業所全体を見てもらい、業務改善につなげている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10	1	地域の研修会の紙を掲示板に貼っている。	みんなが学べる場を提供できるように考慮していきます。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	11		見学時や契約時に保護者様からのニーズを吸い上げ、課題や目標を立てている。	保護者様からのニーズを把握し、計画を立てています。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	3		標準化されたアセスメントツールがないため、作成します。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	9	2	各自分担して取り組むことで、チームワークを構築している。	立案する際には、複数名のスタッフにプログラムに関しての聞き取りを行い、考察しています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	11		新しいレクリエーションや、各自が自己啓発で勉強して、固定化しないようにしている。	スタッフが意欲的に活動プログラムを考えています。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	10	1	設定はしておらず、その日の子どもの特性や人数を考えて課題等を提供している。	1週間の課題をあらかじめ決められた方がいいが、現在は難しいため、これからの課題としていきます。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	11			適切な計画が立てられるように、日ごろから情報収集を怠らないようにしていきます。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10	1	朝のミーティング時に、活動内容について話し合っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	5	打合せという形をとっていないが、気づいた点や問題があればすぐに他のスタッフに相談するようにしている。	情報共有に重きを置き、知らないスタッフにもきちんと情報を伝えるようにしていきます。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	11		業務日報の中で個々の支援内容や活動内容を記録している。	支援内容について詳しく記録するようにしていきます。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	11		個別支援計画の作成時に、目標についての見直しをスタッフでしている。	見直しのタイミングについて、計画作成時だけでなく、保護者様からの要望等があった場合にも柔軟に対応していきます。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	8	3		総則を意識して支援を行っていなかったため、今後意識していきます。	
関係機	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	11		児発管を筆頭に、子どもの情報をまとめて参加している。	できるだけ、児童の様子などをスタッフから聞き取りし、教室全体の意見を伝えていけるようにしていきます。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	11		保護者とも連携し、下校時刻などを知らせてもらっている。	保護者様から情報共有を得られない場合に、学校に下校時刻を聞くようにします。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	10	医療的ケアの子は受け入れられない。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	9	情報共有は散発的である。	保育所や幼稚園との連携が少ないため、積極的に連携していきます。

